

練習問題・解答編

※使われている表現技法については○の中に示しております。

① やわらかに柳あをめる北上の

岸辺目に見ゆ泣けとごとくに (倒置法)

【石川 啄木】

② 大寺を包みてわめく木の芽かな (擬人法)

【高浜 虚子】

③ 智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。 (対句法)

意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

【夏目 漱石】「草枕」より

④ おうい雲よ (呼びかけ)

ゆうゆうと

馬鹿にのんきそうじゃないか

どこまでゆくんか

ずっと磐城平の方までゆくんか

(擬人法)

【山村 暮鳥】「雲」より

⑤ のろいな

のろいな (反復法)

なのはなの

はたけのなかをゆく汽車は

ひら

ひら (反復法)

ひいら

あとからその汽車

追つかける蝶々ちようちよう

【山村 暮鳥「春」より】

⑥ その時です。にわか俄に天井に白い泡がたって、青びかりのまるでぎらぎらする鉄てつ

砲弾ほうだまのようなもの (比喩)

が、いきなり飛込んで来ました。

【宮沢 賢治「やまなし」より】

⑦ 金剛こんごうの露つゆひとつぶや石の上 (隠喩)

【川端 茅舎】

※金剛…ダイヤモンドのこと

練習問題 解説編

- ① この短歌に使われている表現技法は**倒置法**です。本来なら「泣けとごとくに岸辺目に見ゆ」の語順ですが、倒置法を使うことで「泣けとごとくに」が強調されています。

（訳…柳の若葉が柔らかく、青く芽吹いている北上川の岸辺の光景が目には浮かぶ。まるで私に泣けと言うように。）

- ② この俳句では**擬人法**が使われています。「木の芽」が人にたとえられ「わめく」という表現が用いられていることが分かったでしょうか。また、少し分かりづらいですが「大寺を包む」というのも**比喻表現**の一つと言えるでしょう。

- ③ 夏目漱石の「草枕」のはじめの一節です。ここに使われているのは**対句法**です。最初の二文が「AにBすればC」という形になっており、また三文目も似たような表現が用いられているため文章にリズム感が出ています。

- ④ この詩では**呼びかけ**と**擬人法**の二つが使われています。まず、最初の「おい」が**呼びかけ**です。「雲」に呼びかけることで読者の注目を集めるという効

果があります。また、「のんきそうじゃないか」「どこまでゆくんか」などは「雲」を人間にたとえる擬人法です。これにより「雲」に具体的かつ身近なイメージを持つことができます。

⑤ ③とおなじく山村暮鳥の詩です。この詩で使われている表現技法は反復法です。最初の二行の「のろいな」や五・六行目の「ひら」がくり返され、これらの言葉の意味が強調されています。

⑥ ここで使われているのは比喩法のうちの直喩です。ある「もの」の様子が「ぎらぎらする鉄砲玉」に例えられています。さらに「くのようなもの」という表現が使われているので直喩だと分かります。また、ここで使われるように「まるで」も比喩表現を見つけるための手がかりとなることが多いので注意しましょう。

⑦ これは少し難しかったかもしれませんが。「金剛の露」とは「金剛（ダイヤモンド）」のように光りがやいている露」という意味です。つまり、この俳句には隠喩が用いられています。